

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3671600272		
法人名	社会福祉法人 白寿会		
事業所名	グループホーム御所		
所在地	徳島県阿波市土成町宮川内字神田133番地1		
自己評価作成日	平成23年9月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成23年10月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者や職員は、毎日笑顔があふれており穏かに生活している。利用者がもてる力を発揮し、生き甲斐をもって生活することができるよう支援している、また、地域の方との交流を大切に、ぬくもりのある介護や安心できる事業所づくりに取り組んでいる。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所は、山や竹林等に隣接した自然豊かな環境に位置し、利用者が散歩を楽しむ場となっている。同一敷地内に、併設の福祉サービス事業所がある。日ごろから、法人全体で様々な行事や防災訓練を行って、効果的な連携や協力関係の強化に努めている。隣接する公立保育センターより子ども達が来訪してくれることも多く、運動会に参加するなどして相互に交流を図っている。事業所内のリビングやダイニングは落ち着いた造りとなっており、利用者は穏やかな笑顔で会話や食事を楽しんでいる。地域のなかで、ケアの拠点としての機能を果たしており、職員が講習会の講師を務めたり、実習生や研修生を受け入れたりしている。管理者と職員は、明るく楽しい家庭的な環境を目指し、ともに地域で生活していくための支援に取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての役割について話しあって理解し、事業所独自の理念を掲げている。全職員が認識できるよう掲示を行って共通認識を深め実践に活かしている。	全職員で作成した事業所独自の理念を掲げている。日ごろから理念について話しあって共有化を図っている。事業所は、明るく楽しい家庭的な環境をつくり、地域でともに暮らし続けられるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育センターとの交流を図ったり、清掃活動のボランティアに参加したりして、地域との交流を図っている。	事業所は、地域の一員として”宮川内川をよくする会”のボランティア活動や隣接する公立保育センター主催の運動会等へ参加している。利用者と職員が一体となって地域との関係づくりに取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に老人介護や認知症をより一層理解していただくため、職員が講習会の講師を勤めるなどしている。また、近隣の方のことで相談があればアドバイスをを行うなどしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、利用者の状況や日ごろの取り組み等を話しあっている。出された意見は、職員に伝達してサービスの質の向上に繋げている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議には、家族や地域住民、民生委員、地域包括支援センター職員等の参加がある。事業所から、利用者の状況や取り組み等に関する報告を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険課とはつねに連携を図って情報交換に勤めている。また、他の市町村担当者にも連絡をとって実情を伝えるなどし連携を図っている。	市担当者と密に連携を図り、利用状況や事業所の取り組み等について報告や相談を行っている。事業所への来訪者も多く、情報交換を行ってサービスの質の向上に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束が必要と考えられるときには、家族に必要性を説明し、理解を得たうえで同意書に署名していただいている。夜間は家庭と同じように戸締りはしている。	管理者や職員は、身体拘束の内容とその弊害について理解している。日ごろから、利用者一人ひとりの人格を尊重しケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する各種研修会に参加している。また、報告を行って、職員に虐待防止の重要性を認識してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用されている方がいるため、全職員が制度を身近に感じ理解しようとしている。活用を勧めるまでの支援は現在行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約の改定時に十分な説明を行って、納得していただいたうえで同意してもらっている。疑問等はつねに管理者がお伺いしており、必要に応じて説明を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から出された要望や意見等を大切にしており、つねに傾聴する姿勢で対応している。また、外部に苦情相談窓口があることを重要事項説明書に明示したり、事業所内に掲示したりしている。出された意見等は、職員や関係者間で検討し運営に反映させている。	日ごろの利用者との関わりや家族の来訪時等に、意見や要望を引き出すよう取り組んでいる。年1回、利用者・家族アンケートを行っており、出された意見や要望を関係者間で話しあって、更なるサービスの質の向上に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼時や勉強会等で職員の意見を聞いている。管理者はつねに現場に入って職員とコミュニケーションを図るよう心がけ、意見の出やすい雰囲気づくりに留意している。	管理者は、日ごろの会話やミーティングのなかで意見を出しやすい雰囲気づくりに留意している。出された意見等は、代表者や管理者で検討して運営面に反映するなどの取り組みを行っており、働きやすい職場環境の構築に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員自身が自分の行っている仕事の重要性を認識できるよう、一人ひとりの勤務状況を把握している。努力や功績に応じ、ボーナスや給料面等に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修に積極的に参加している。職員会議や各部署で研修の内容を報告し共有化を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人の他グループホームと情報の共有や交流を行っている。また、徳島県老人福祉施設協議会の加入事業所との研修会や交流もあり、サービスの見直しや質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に生活状態を把握するため、自宅を訪問するなどして信頼関係を築くよう努めている。また、本人の思いを受け止め、ともに解決策を考えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の状況をよく聞いて把握に努めている。家族が納得されるアドバイスができるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が今一番必要としているサービスは何かを他職種を交えて広い視野から見つめ、希望に応じたサービスや今後必要であろうサービスを提供できるよう取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者を人生の先輩として敬う態度で接している。本人の思いを把握して共感し、協力しあって過ごすなかでともに学んだり支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日ごろから、家族に利用者の様子をこまめに伝えるようにしている。利用者の現状を知ってもらって家族とともに利用者支援するよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の希望に応じて、行きつけの美容院等に出かけている。近隣の方がデイサービスを利用される時には訪問し、知人との関係が途切れないよう支援している。	入居前の段階で利用者や家族と話しあい、本人がこれまで培ってきた人間関係や社会との繋がりを把握するよう努めている。利用者の希望に応じて行きつけの美容院へ出かけた時、電話で会話を楽しむ機会を設けたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で過ごす時間や場所を提供できるよう、必要に応じて声かけや見守りを行っている。利用者は、自分にできる範囲で他の方の手助けを行っており、無意識に支えあえる微笑ましい雰囲気根づいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所を移られる場合は情報提供を行うようにしている。移動先が併設事業所の場合は行き来して関係を継続させている。退居後も状態を気にかけて、家族からの相談に応じている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろから、利用者一人ひとりの思いや希望を理解しようと話に耳を傾けたり、些細な表情や行動等にも気をつけて声かけを行っている。職員は、様々な方向から利用者のことを考えて本人本位に検討している。	利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。日ごろの生活のなかから思いをくみ取り、全職員で利用者の視点に立って話しあい、支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりのプライバシーに配慮し、家族や関係者の協力を得たうえで情報を得ている。また、生活や会話のなかから生活歴等を見い出すよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりのペースを大切にサポートするようにしている。生活のなかで、利用者の有する力等の現状を把握し、全職員が認識できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	自分らしく生活していただくために、本人や家族と話しあっており、出された意見や要望等を踏まえて、カンファレンス時に介護計画書を作成している。介護計画書は、本人や家族に説明し、署名や捺印をいただいている。	原則3か月ごとに介護計画書の見直しを行っているが、利用者一人ひとりの状況の変化に応じてそのつどの見直しも行っている。家族や担当職員、看護師、計画作成担当者等で話しあって、本人のより良い暮らしを支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、日ごろの様子を細かく記録している。気づきなども記録し、全職員で情報の共有を図って実践に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化や家族からの要望に応じて併設事業所に移動するなど、状況にあわせた柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育センターの子供達との交流や学生、ボランティアの受け入れなどを行っている。地域の店舗等の資源も活用し、楽しく生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を絶つことなく適切な医療が受けられるように支援している。家族や主治医、訪問看護等との連絡を密に図り協力しあって支援している。	利用者一人ひとりの希望に応じたかかりつけ医の受診を支援している。車椅子での受診や往診の支援を行っている。訪問看護師の協力により、利用者一人ひとりに応じた医療機関の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職や訪問看護により、日ごろの健康管理を行っている。介護職も状態変化等の早期発見に努めており、変化があれば相談し、症状に応じた医療機関の受診を支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間がなるべく短くなるよう、家族や担当医師、看護職、ケアワーカー間でこまめに情報交換を行っている。退院後のケアに備え、全職員に情報を伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を作成している。職員は、医療機関や訪問看護と連携し、重度化した際の対応や終末期の支援を行うことができるよう体制を整備している。	重度化した場合や終末期のあり方に関する対応指針を作成している。職員は、利用者や家族が安心して支援を受けることができるよう医療機関や訪問看護と連携し、チームで支援していくための体制整備を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	独自の緊急対応マニュアルを作成し、全職員で共有している。広域連合に協力を得て、全職員が救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、併設事業所とともに対応マニュアルにもとづいて消防避難訓練を実施している。地域の消防団との協力体制を構築している。法人内で非常食を備蓄している。	消防署や併設事業所の協力を得て、年2回、避難訓練を実施している。夜間を想定した訓練も実施している。災害対応マニュアルを作成したり、消防団との協力体制を構築したりしている。	

自己	外部	項目	花		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日ごろから、利用者への声かけや介護に気をつけており、プライドを傷つけないよう細心の注意を払っている。記録も適切に保管し個人情報保護に努めている。	利用者一人ひとりの人格や誇りを大切にしており、プライバシー保護について機会あるごとに話しあっている。日ごろから利用者の立場に立って考え、誇りや尊厳を損なわない対応を心がけ支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりのペースにあわせた声かけを行っている。意思表示の困難な方には関わりを多くもって表情等から希望を汲みとるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに応じた支援を心がけている。利用者に無理強いせず、本人の望む過ごし方を支援するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を尊重し、外出や行事の際におしゃれを楽しむことができるよう支援している。毛染めの希望にも応じている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と献立を考えたり、食事の準備や片付け等とともに行っている。利用者と職員は、明るい雰囲気の中会話や食事を楽しんでいる。	利用者と職員は、ともに買い物に出かけたり、旬の食材によるメニューをつくらしている。利用者の食べたいものを中心に献立をたてているが、法人の栄養士がチェックしているため、必要な栄養や摂取量等は確保している。利用者は、力量に応じて準備や片付け等の役割を担っている。利用者と職員は、同じテーブルを囲んで食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮したうえで献立を立て、定期的に栄養士に確認してもらっている。利用者一人ひとりの状態や慢性疾患のある方には特段の注意を払い、水分・食事摂取量を変更するなどの対応を行っている。咀嚼状態にも考慮し調理方法を工夫している。毎日、摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行うよう声かけしている。ケアの必要な方には支援している。義歯の管理が困難な方は、希望に応じて夜間にお預かりして消毒や保管をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			花 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄習慣やパターンを把握して誘導や声かけを行い、トイレやポータブルでの排泄の自立を支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、自立に向けた支援に努めている。本人の気持ちを大切にされた支援に努めており、様々な工夫を行っている。日中、オムツをせずに生活できるようになった利用者も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や水分補給をこまめに行っている。また、体を動かしたり便秘解消のマッサージ等も行って自然排便を促す支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望を尊重し入浴していただいている。ゆっくりと入浴できるよう時間には余裕をもって支援している。	敷地内から温泉が沸いているため事業所のお風呂に活用し、入浴が楽しいものとなるよう環境整備を行っている。利用者一人ひとりの意向にそった支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共有空間にソファを設置している。畳のスペースもあり、利用者一人ひとりが自由にくつろぐことができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬や効を一覧にまとめてファイルを作成し、自由に閲覧できる場所に設置している。副作用のリスクを理解し誤薬予防のために名前や服薬の確認を毎食時に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの得意分野を見つけ、自信を高められるような声かけや支援を行っている。趣味を行い楽しく生活されている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に応じて、散歩や買い物等の外出支援を行っている。月1回程度は、事業所全体での外出を企画し、戸外に出かけられるよう努めている。	利用者一人ひとりの希望に応じ、美容院や墓参り、買い物等の外出支援を行っている。外のベンチで日光浴を楽しんだり、事業所で飼っている犬の散歩に職員とともに出かけたりして、戸外で気持ち良く過ごせるよう工夫している。	

自己	外部	項目	花		
			自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得たうえで、少額の金銭を所持されている方もいる。買い物時には自分で支払いをしてもらえるように支援したり、使用しなくてもお金を持つことで安心感を得ている方もいる。		次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族や親類を心配して電話をかけたいたいの希望があるときには、ダイヤルを押すなどの支援をしている。また、毎月送付する事業所便りのコメントを本人に書いていただくこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、季節感が出るように雛人形や五月人形、七夕飾り、クリスマスツリー等を飾っている。利用者にとって不快な音や臭いは出さないよう努めている。	居間兼食堂には、ゆったりとしたスペースがあり、利用者が集まって会話等を楽しんでいる。季節感のある飾りつけや花が生けられており、家庭的で暖かみのある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや廊下に、ソファを設置したり畳コーナーを設けたりしている。戸外にもベンチを置いており、一人で過ごしたり、気のあう利用者が少人数で安心して過ごせるような共有空間の整備・提供を心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、使い慣れ物や家具等を持参してもらっている。馴染みの物を活かし、以前と変わらず居心地よく過ごせられるよう配慮している。	利用者一人ひとりの使い慣れた机や筆筒を持ち込んでもらっている。また、家族が手づくりしたちりめん細工の部屋飾りを飾っている方もいる。利用者一人ひとりが安全に落ち着いて暮らせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に絨毯を敷き詰めたり、手すりを設置したりして、利用者一人ひとりが安全に暮らすことができるよう配慮している。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	和	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	実践状況
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての役割について話しあって理解し、事業所独自の理念を掲げている。全職員が認識できるよう掲示を行って共通認識を深め実践に活かしている。			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育センターとの交流を図ったり、清掃活動のボランティアに参加したりして、地域との交流を図っている。			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に老人介護や認知症をより一層理解していただくため、職員が講習会の講師を勤めるなどしている。また、近隣の方のことで相談があればアドバイスをを行うなどしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催している。会議では、利用者の状況や日ごろの取り組み等を話しあっている。出された意見は、職員に伝達してサービスの質の向上に繋げている。			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の介護保険課とはつねに連携を図って情報交換に勤めている。また、他の市町村担当者にも連絡をとって実情を伝えるなどし連携を図っている。			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束が必要と考えられるときには、家族に必要性を説明し、理解を得たうえで同意書に署名していただいている。夜間は家庭と同じように戸締りはしている。			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃さざることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待に関する各種研修会に参加している。また、報告を行って、職員に虐待防止の重要性を認識してもらっている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			和 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用されている方がいるため、全職員が制度を身近に感じ理解しようとしている。活用を勧めるまでの支援は現在行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約の改定時に十分な説明を行って、納得していただいたうえで同意してもらっている。疑問等はつねに管理者がお伺いしており、必要に応じて説明を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から出された要望や意見等を大切にしており、つねに傾聴する姿勢で対応している。また、外部に苦情相談窓口があることを重要事項説明書に明示したり、事業所内に掲示したりしている。出された意見等は、職員や関係者間で検討し運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼時や勉強会等で職員の意見を聞いている。管理者はつねに現場に入って職員とコミュニケーションを図るよう心がけ、意見の出やすい雰囲気づくりに留意している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員自身が自分の行っている仕事の重要性を認識できるよう、一人ひとりの勤務状況を把握している。努力や功績に応じ、ボーナスや給料面等に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内・外の研修に積極的に参加している。職員会議や各部署で研修の内容を報告し共有化を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人の他グループホームと情報の共有や交流を行っている。また、徳島県老人福祉施設協議会の加入事業所との研修会や交流もあり、サービスの見直しや質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	和	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に生活状態を把握するため、自宅を訪問するなどして信頼関係を築くよう努めている。また、本人の思いを受け止め、ともに解決策を考えている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の状況をよく聞いて把握に努めている。家族が納得されるアドバイスができるよう心がけている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族が今一番必要としているサービスは何かを他職種を交えて広い視野から見つめ、希望に応じたサービスや今後必要であろうサービスを提供できるよう取り組んでいる。			
18		○本人と共に過ごしえあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、利用者を人生の先輩として敬う態度で接している。本人の思いを把握して共感し、協力しあって過ごすなかでともに学んだりえあう関係を築いている。			
19		○本人を共にえあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日ごろから、家族に利用者の様子をこまめに伝えるようにしている。利用者の現状を知ってもらって家族とともに利用者支援するよう努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の希望に応じて、行きつけの美容院等に出かけている。近隣の方がデイサービスを利用される時には訪問し、知人との関係が途切れないよう支援している。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で過ごす時間や場所を提供できるよう、必要に応じて声かけや見守りを行っている。利用者は、自分にできる範囲で他の方の手助けを行っており、無意識に支えあえる微笑ましい雰囲気根づいている。			

自己	外部	項目	自己評価	和	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所を移られる場合は情報提供を行うようにしている。移動先が併設事業所の場合は行き来して関係を継続させている。退居後も状態を気につけ、家族からの相談に応じている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日ごろから、利用者一人ひとりの思いや希望を理解しようと話に耳を傾けたり、些細な表情や行動等にも気をつけて声かけを行っている。職員は、様々な方向から利用者のことを考えて本人本位に検討している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりのプライバシーに配慮し、家族や関係者の協力を得たうえで情報を得ている。また、生活や会話のなかから生活歴等を見い出すよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりのペースを大切にサポートするようにしている。生活のなかで、利用者の有する力等の現状を把握し、全職員が認識できるよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	自分らしく生活していただくために、本人や家族と話しあっており、出された意見や要望等を踏まえて、カンファレンス時に介護計画書を作成している。介護計画書は、本人や家族に説明し、署名や捺印をいただいている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルを作成し、日ごろの様子を細かく記録している。気づきなども記録し、全職員で情報の共有を図って実践に繋げている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態変化や家族からの要望に応じて併設事業所に移動するなど、状況にあわせた柔軟な支援を行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	和	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育センターの子供達との交流や学生、ボランティアの受け入れなどを行っている。地域の店舗等の資源も活用し、楽しく生活できるよう支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との関係を絶つことなく適切な医療が受けられるように支援している。家族や主治医、訪問看護等との連絡を密に図り協力しあって支援している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職や訪問看護により、日ごろの健康管理を行っている。介護職も状態変化等の早期発見に努めており、変化があれば相談し、症状に応じた医療機関の受診を支援している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間がなるべく短くなるよう、家族や担当医師、看護職、ケアワーカー間でこまめに情報交換を行っている。退院後のケアに備え、全職員に情報を伝えている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応指針を作成している。職員は、医療機関や訪問看護と連携し、重度化した際の対応や終末期の支援を行うことができるよう体制を整備している。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	独自の緊急対応マニュアルを作成し、全職員で共有している。広域連合に協力を得て、全職員が救命講習を受けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、併設事業所とともに対応マニュアルにもとづいて消防避難訓練を実施している。地域の消防団との協力体制を構築している。法人内で非常食を備蓄している。			

自己	外部	項目	自己評価	和	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日ごろから、利用者への声かけや介護に気をつけており、プライドを傷つけないよう細心の注意を払っている。記録も適切に保管し個人情報保護に努めている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりのペースにあわせた声かけを行っている。意思表示の困難な方には関わりを多くもって表情等から希望を汲みとるよう努めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに応じた支援を心がけている。利用者に無理強いせず、本人の望む過ごし方を支援するよう努めている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を尊重し、外出や行事の際におしゃれを楽しむことができるよう支援している。毛染めの希望にも応じている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と献立を考えたり、食事の準備や片付け等をともにやっている。利用者と職員は、明るい雰囲気の中会話や食事を楽しんでいる。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに配慮したうえで献立を立て、定期的に栄養士に確認してもらっている。利用者一人ひとりの状態や慢性疾患のある方には特段の注意を払い、水分・食事摂取量を変更するなどの対応を行っている。咀嚼状態にも考慮し調理方法を工夫している。毎日、摂取量を記録している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行うよう声かけしている。ケアの必要な方には支援している。義歯の管理が困難な方は、希望に応じて夜間にお預かりして消毒や保管をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			和 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄習慣やパターンを把握して誘導や声かけを行い、トイレやポータブルでの排泄の自立を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や水分補給をこまめに行っている。また、体を動かしたり便秘解消のマッサージ等も行って自然排便を促す支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望を尊重し入浴していただいている。ゆっくりと入浴できるよう時間には余裕をもって支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	共有空間にソファを設置している。畳のスペースもあり、利用者一人ひとりが自由にくつろぐことができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬や効能を一覧にまとめてファイルを作成し、自由に閲覧できる場所に設置している。副作用のリスクを理解し誤薬予防のために名前や服薬の確認を毎食時に行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの得意分野を見つけ、自信を高められるような声かけや支援を行っている。趣味を行い楽しく生活されている方もいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に応じて、散歩や買い物等の外出支援を行っている。月1回程度は、事業所全体での外出を企画し、戸外に出かけられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	和	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の協力を得たうえで、少額の金銭を所持されている方もいる。買い物時には自分で支払いをしてもらえるように支援したり、使用しなくてもお金を持つことで安心感を得ている方もいる。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族や親類を心配して電話をかけたいとの希望があるときには、ダイヤルを押すなどの支援をしている。また、毎月送付する事業所便りのコメントを本人に書いていただくこともある。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を生けたり、季節感が出るように雛人形や五月人形、七夕飾り、クリスマスツリー等を飾っている。利用者にとって不快な音や臭いは出さないよう努めている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや廊下に、ソファを設置したり置コーナーを設けたりしている。戸外にもベンチを置いており、一人で過ごしたり、気のあう利用者が少人数で安心して過ごせるような共有空間の整備・提供を心がけている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、使い慣れ物や家具等を持参してもらっている。馴染みの物を活かし、以前と変わらず居心地よく過ごせられるよう配慮している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に絨毯を敷き詰めたり、手すりを設置したりして、利用者一人ひとりが安全に暮らすことができるよう配慮している。			